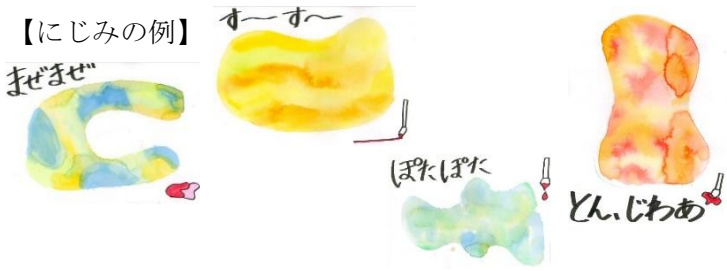
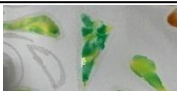


第3学年4組 図画工作科 にじんで広がるものがたり

学習活動・予想される児童の反応	本時見られた深く学び続ける子どもの姿									
1 前時の学習を振り返り、めあてを立てる。 【にじみの例】 	○ 前時に練習したにじみを確認し、どのようににじみを作ったか思い出す姿があった。また、「似た色」を使ってにじみを作ると綺麗な色味になることを確認し、「色相環がみたい。」という声が挙がったため、色の組み合わせに対する意識の高まりも見られた。 ○ 活動のはじめは、自分の気に入ったにじみを使う児童が多かった。班机にしていたため、友達の作業を見て、にじみを変える姿も見られた。 ○ 交流する時間では、にじみが何に見えるか話す姿が見られた。									
にじみの形や色を工夫しながら、作品のお話を考えよう。	T にじみが何に見えるか交流しましょう。 C 1 君の絵は、なんだか魚に見えるね。 C 2 ほんとだ！だからこの細長いのは海藻にしたらいいんじゃない？ C 3 けど、ここの模様を温かい色（暖色）を使ってしまったから、冷たい色にしたら混ざって汚くなっちゃうかも。 C 1 それならイソギンチャクにしたら？ C 3 なら、この魚をクマノミにしよう。 C 2 海の世界になるんだったら、ほかにも海の生物を増やしたらいいね。									
2 にじみでできる形や色の組み合わせを考えながら、にじみを作り、交流する。【他】【場】 (1) にじみを作りながら、色塗りを進める。 ○ 「まぜまぜ」のやり方でにじみを作ったら新しい色ができたよ。 ○ 「ぼたぼた」のやり方は色が濃くなったり薄くなったりしておもしろいな。 ○ 似た色でにじみを作ると色がきれいになったよ。 (2) 制作途中の作品を見合って、感想を伝え合う。 ○ この模様は、魚のうろこに見えるよ。 ○ たくさんのお花が咲いているみたいだね。 ○ 「すーすー」のにじみも使うと、面白そう。										
3 交流して出た意見をもとに、作品作りを進める。 <table><tr><td>同じにじみの作り方で色をぬる。</td><td>別のにじみの作り方で色をぬる。</td><td>【例】にないにじみの作り方で色をぬる。</td></tr><tr><td colspan="3">様々なにじみを作ることで、作品の表し方やお話を想像することができたか確かめる。</td></tr><tr><td colspan="3">新たなにじみや様々な色の組み合わせがあることに気づき、新しいにじみに挑戦したいと思うことができる。</td></tr></table>	同じにじみの作り方で色をぬる。	別のにじみの作り方で色をぬる。	【例】にないにじみの作り方で色をぬる。	様々なにじみを作ることで、作品の表し方やお話を想像することができたか確かめる。			新たなにじみや様々な色の組み合わせがあることに気づき、新しいにじみに挑戦したいと思うことができる。			○ 話し合いをもとに、にじみをもう一度作る時間を設けたが、多くの児童が1回目よりも2回目の方が、筆をよく動かす姿が見られた。 ○ 友達と自分の作品の進捗を比較し、もう少しスピードを上げて色塗りを進める姿もあった。 ○ 話し合いの時間を通して、にじみの例以外のにじませ方を見つけ、新しいにじみを生み出す姿も見られた。 ○ 「〇〇に見える」とアドバイスをもらって、意図的に色を作り、具体物に似せて色塗りをする姿もあり、話し合いを一度挟むことで、作品の進め方の見通しをつかめたようであった。 ○ 学習の振り返りでは、考えた物語の続きを作ることができるように、作品作りの計画を立てる姿が見られた。
同じにじみの作り方で色をぬる。	別のにじみの作り方で色をぬる。	【例】にないにじみの作り方で色をぬる。								
様々なにじみを作ることで、作品の表し方やお話を想像することができたか確かめる。										
新たなにじみや様々な色の組み合わせがあることに気づき、新しいにじみに挑戦したいと思うことができる。										
4 学習を振り返る。 【使ったにじみ】 とん、じわあ まぜまぜ 【今日がんばったこと】 2つのにじみを使いました。水をたっぷりにして色をたらすのがむずかしかったです。 【次の時間ががんばりたいこと】 今日とちがう色を使って、木のはっぱ部分を完成したいです。 										

- 話し合いや友達の作品を鑑賞する時間を設けたことで、作品作りのアイデアが増えた児童が多く見られた。また、自分の作品に直接意見をもらうことで、模倣ではなくオリジナルの作品作りもできた。
 - 自己選択する場面において、最初の段階は抽象的なものを取りあえず色付けする活動にしていたので、「なぜそのにじみや色を使ったのか。」という意図を考えさせることができなかった。
- 意図的に「何を描くか」決めさせた後、にじみを使った方が自己選択・自己決定の理由が明確になる。
- 絵の具を使うとどうしても活動時間が短いので、前時の振り返りをもう少し少なくして、児童同士の対話の時間を作ると、もう少し自己選択・自己決定の時間をとることができたと思った。